

医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）

1. スタッフ（2023年4月1日現在）

センター長（医師）	新保 昌久（専任）
副センター長（医師）	味村 俊樹（専任）
医 師	◎野本 佳恵（専従）
看 護 師	◎高久 美子（専従）
看 護 師	◎飯田 久子（専従）
薬 剤 師	荒川 祐輔（専従）
看 護 師	栗原日登美（専従）

（◎ 専従医療安全管理者）

【安全推進部門】

部 門 長（医師）	新保 昌久（専任）
副 部 門 長（医師）	佐久間康成（兼）
副 部 門 長（医師）	門田 行史（兼）
副 部 門 長（医師）	間藤 尚子（兼）
副 部 門 長（医師）	藤井 裕之（兼）
副 部 門 長（看護師）	大貫 紀子（兼）
医 師	高橋 詳史（兼）
医 師	益子 貴史（兼）
医 師	滝 直也（兼）
教 員	前田 佳孝（兼）

【質向上・臨床倫理部門】

部 門 長（医師）	味村 俊樹（専任）
副 部 門 長（医師）	堀江 久永（兼）
医 師	益子 貴史（兼）

【医薬品・医療機器安全管理部門】

部 門 長（医師）	今井 靖（兼）
副 部 門 長（医師）	川人 宏次（兼）
薬 剤 師	片野 昌宏（兼）
臨床工学技士	木村 好文（兼）

【渉外担当部門】

部 門 長（医師）	新保 昌久（専任）
-----------	-----------

事 務 8 名

2. 医療の質向上・安全推進センターの特徴

院内で発生した医療安全上の諸問題に組織横断的に対応するため、2003年4月に病院長直轄組織の「医療安全対策室」を設置、2004年には「医療安全対策部」に改称し、2005年には専任の医師1人、看護師長2人を配置した。医療安全対策部は、院内インシデント報告制度の整備、職員研修の実施、事例分析、院内巡視、有害事象後の対応等、院内の安全管理に関する多様な業務を担当してきた。

更に2017年4月に、高度医療を提供する特定機能病院における医療の質・安全管理体制を強化するため、新

た医療安全管理部門として、「医療の質向上・安全推進センター」（略称：QSセンター）に改組した。新たな名称には、事故発生時の危機管理だけでなく、「平時の医療の質の向上が医療安全につながる」という理念と、「より前向きな取り組みで医療安全を推進していこう」という意気込みを込めている。QSセンターは、安全推進部門（インシデント報告の収集・分析、有害事象の原因究明、医療安全管理指針・各種マニュアルの整備、院内巡視による確認・指導など）、質向上・臨床倫理部門（高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング、臨床倫理への対応など）、渉外担当部門（有害事象・訴訟への対応など）に加え、2019年4月から医薬品・医療機器安全管理部門（未承認新規医薬品・医療機器、適応外医療機器に関する評価・モニタリング・監査への対応など）が設置され、それぞれ専従、専任、兼務スタッフ及び各部門のQSマネージャーと連携して、医療の質と安全を高める取り組みを進めている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

●業務内容

- （1）医療安全に関する情報収集、分析、改善策の立案、周知、評価
- （2）医療安全対策の提案・情報提供（啓発活動）
- （3）医療の質向上・安全推進委員会、QSマネージャー会議の開催
- （4）職員に対する教育（講習会、研修会の開催）
- （5）全死亡症例の把握
- （6）有害事象発生時の支援
- （7）高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング
- （8）インフォームドコンセントの適切な実施
- （9）臨床倫理に関する情報収集、連絡調整
- （10）未承認新規医薬品・医療機器及び適応外医薬品・医療機器に関する審査・モニタリング・監査
- （11）医薬品・医療機器の安全使用のための情報収集、研修の実施
- （12）紛争事例への対応（総務課、患者サポートセンター医療福祉相談室と連携）

●2022年の主な活動実績

- （1）医療安全講習会（全職員対象）

①医療安全・感染対策合同講習会

開催日 5月23日

演 題 「医療安全2022～基本的事項の確認と新たな取り組み～」

- 医療の質向上・安全推進センター
新保 昌久
- ②医療安全講習会
開催日 7月26日
演 題 「死亡診断書の書き方について」
医療の質向上・安全推進センター
野本 佳恵
「医薬品の安全・適正使用のために実行していただきたいこと～病院機能評価受審、最近のインシデント報告から～」
医薬品安全管理副責任者
片野 昌宏
「医療機器を安全に使用する」
医療機器安全管理副責任者
木村 好文
- ③医療安全・感染対策合同講習会
開催日 9月29日
演 題 「臨床倫理と説明・同意（IC）」
医療の質向上・安全推進センター
味村 俊樹
- ④医療安全講習会
開催日 10月17日
演 題 「チームで取り組む心電図モニターの安全管理」
さいたま市民医療センター
石田 岳史
- （2）研修医医療安全セミナー
①開催日 2月7日
テーマ 「インシデント報告と薬剤オーダー時の注意」
②開催日 6月20日
テーマ 「インシデント報告と採血時の注意点」
③開催日 8月22日
テーマ 「インシデント報告と臨床倫理」
④開催日 11月14日
テーマ 「インシデント報告と医療安全最近の話題」
⑤開催日 12月12日
テーマ 「インシデントレポートの書き方（復習）」
- （3）医療安全に関する研修会
①新QSマネージャーオリエンテーション
・QSマネージャーの役割編（毎月1回）
②研修医感染・安全技術研修（4月）
・採血、ルート確保、輸液ポンプ演習等
③多職種合同医療安全研修会（4月）
・動画を用いたケースカンファレンス
④新人看護職員基礎技術研修（4月）
・安全確保1、2、3
⑤中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会
・新規認定医 22名（2、7月）
- ⑥AED・心肺蘇生研修（1、6、9、10、11、12月）
計14回 493名
- （4）医療安全管理指針、マニュアル改正等
①医療安全管理指針
②QSマネジメントマニュアル
③QSマネジメントマニュアル（ポケット版）
④医薬品の安全使用のための業務手順書
- （5）安全情報
①QSセンター発行
The Q.S. Times（第55号～第66号）
②日本医療機能評価機構発行
医療安全情報（No.182～No.193）
- （6）医療の質・安全に関する事例検討会 1回開催
- （7）院内横断的活動
①人工呼吸管理安全対策チーム活動
②委託業者との連絡会
③中央手術部連絡会議
④医療材料審査委員会
⑤輸血療法委員会
- （8）院内巡視
月2回 計13回
参加者内訳
QSセンター員：延べ86名
QSマネージャー：44名
- （9）医療の質向上・安全推進委員会
毎月1回 第2火曜日
- （10）QSマネージャー会議
隔月1回 第3木曜日
- （11）モーニングカンファレンス
毎週水曜日
- （12）ワーキンググループ活動
①院内急変時対応
②中心静脈カテーテル
③気管切開安全対策
④インフォームドコンセント
⑤VTE予防対策
⑥転倒転落
⑦MACT
⑧休業

(13) 安全活動

①安全総点検月間

5月23日～6月19日

テーマ 「守っていますか？安全のルール！インシデントからの教訓と対策の再確認」

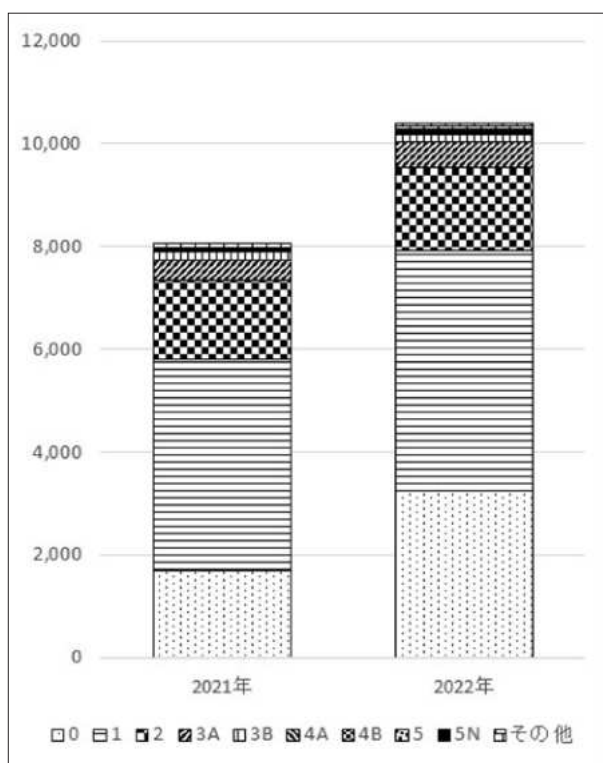
②医療安全推進週間

11月20日～11月26日

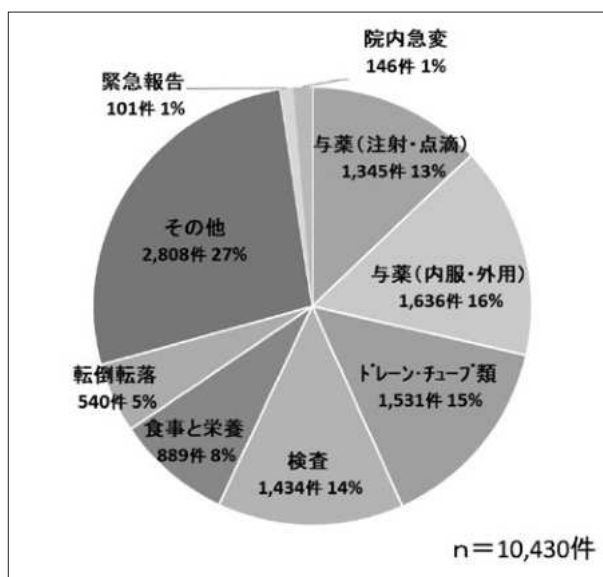
テーマ 「守っていますか？安全のルール！インシデントからの教訓と対策の再確認」

(14) インシデント・アクシデントレポート

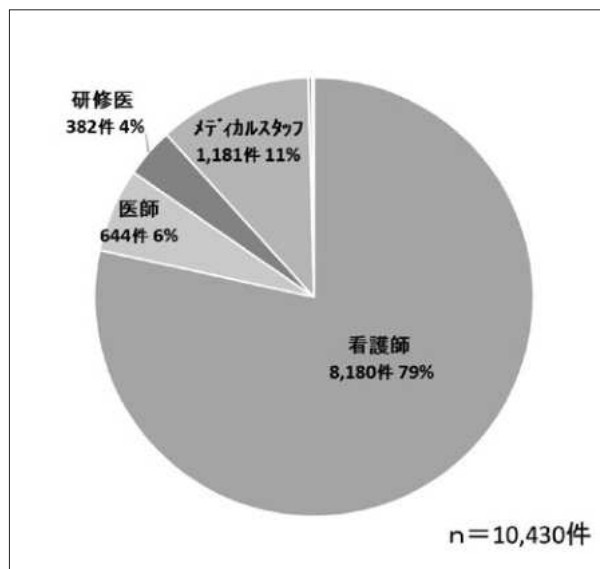
①報告件数比較（2021年、2022年：1～12月）



②2022年 種類別報告一覧



③2022年 職種別報告一覧



(15) 日本医療機能評価機構との連携

- ・事例報告
- ・研修会の参加

(16) 社会、他の医療機関等に対する貢献

- ・患者安全・医療安全・医療の質に関する情報の提供、講師派遣

4. 2023年の目標・事業計画等

従来の業務に加え以下の諸事項を目標としている。

- ①QSマネージャーとの連携強化による各部署における主体的な安全活動の推進
- ②インシデント報告の質向上と分析・活用の強化
- ③若手医療スタッフへの医療安全教育の充実
- ④Rapid Response System (RRS) の体制強化
- ⑤医薬品の安全管理の推進
- ⑥患者の意思決定支援に関する啓発

これらの目標達成へ向けての努力と並行して、病院内での横断的なコミュニケーションが円滑に進むように支援していきたいと考えている。